



あゆみ

〈教育目標〉
やさしく
かしく
たくましく

11月半ば。日中の気温も低くなり、日だまりが心地よく感じられるようになりました。空は青く澄み、野山は赤や黄色に彩られ、自然の美しさをいっそう感じる季節です。今月号は、そんな秋からいくつか思っていることをお伝えしたいと思います。

人の命は地球より重い

11月15日は七五三の日です。三歳、五歳、七歳と成長の節目に近くの氏神様に参拝し、無事成長したことを感謝し、これからの幸福と長寿をお祈りする行事です。医療・衛生面が未発達で乳幼児の死亡率が高かった昔は、七歳までの子どもは神の子とされ、七歳になって初めて社会の一員として認められたそうです。子どもが大切であるのは医療が進歩した今も変わりません。どの家庭でも健康な成長を願っています。しかし、時に自ら命を絶つ十代の子どもが報道されます。たくさんの可能性を秘めた若い命が失われていくことを聞くと、大人として教師として無力感に襲われます。かつて公民の教科書に『人の命は地球より重い』と記されていました。その通りだと思います。



自ら命を絶つ子どもの背景には、いじめがあると言われることが少なくありません。子どもが仲間やグループから『仲間はずれ』や『無視』などの心理的な攻撃、身体への暴力や金品をたかられるなどの攻撃によるいじめは、どんな理由があっても絶対に許されません。先日、本校では教育相談が行われました。また来月には人権週間があります。これらの活動はもとより、本校では全教職員が日々の教育活動を通して、一人一人の児童の状況を見守っていきたいと思っております。保護者の方々におかれましてもお子さまの表情、交友関係などに変化が見られ、お子さまが心理的にも不安定な状況にある場合は、速やかに学校にご連絡ください。また、最近の子どもの様子から、保護者の皆様にも次の2点について、ご注意をお願いしたいと思います。

一つは、いじめや交友関係などで児童が悩んでいてもなかなか大人に相談できないということです。一人で抱え込んで悩むケースが増えています。学校やご家庭でのお子さんの様子の変化をこれまで以上に注意して見取ることが必要になります。

二つ目は、携帯電話、ゲーム機、ブログ、LINEへの書き込みなどインターネットの利用による相手に対する誹謗中傷によるトラブルが小学校でも見られるようになったことです。携帯電話やゲーム機などの利用状況がどうなっているか、学校でもモラル教育を行っています。ご家庭でも利用の様子や通信内容などこれまでと違ったお子さまの状況がないか、注意深く見守ってください。

いじめ根絶は学校と家庭が両輪になりともに全力で取り組むことが重要です。これまでもましていっそうの連携・協力をお願いいたします。

食欲の秋

秋は、お月見や秋祭りなど、収穫の喜びや感謝、五穀豊穡など豊作への願い等を人々全体の気持ちとして表す習慣が、日本全国に残っています。ところで皆さんのお子さまは、どのように食事を開始しますか？おそらくほとんどの人は、「いただきます」だと思いますが、何も言わずに食べ始める人はいませんか？「いただきます」は単なる食事開始の合図ではありません。「いただきます」をする時には、作ってくれた方々への感謝、米や野菜、肉、魚などにかかわる農業や漁業などに携わる人々への感謝、食料の流通にかかわる人々への感謝など、たくさんの気持ちを込めて欲しいと思います。

食欲の秋ともいわれます。この季節にぜひ、食事の大切さ、喜び、楽しさということと、食事は健康を維持するためにあるということ、どのような食品が安全かなど、いろいろ学んでいただきたいと思っております。『米』という字は八十八と書きます。『米』を作るには八十八の手間があるそうです。今日から心を入れて「いただきます」をしましょう。



『お手伝い』はダメ

11月23日は勤労感謝の日です。『ハタ(周りの人)をラク(楽)にする』から『働く』、『働く』とは、人のために尽くすことであり、社会に貢献することだということです。私たちが安心して、不自由なく生活できるのは、社会全体で多くの人々が働いて、生活に必要な物を作り、運び、加工し、販売してくれるからです。

ところで、「あなたは、家でどんなお手伝いをしていますか？」と私が聞いたとします。実は、この質問はおかしいかもしれません。それでは、どこがおかしいのでしょうか？それは、『お手伝い』という言葉です。「あなたは、家でどんな役割を果たしていますか」と聞くべきなのかもしれません。

例えば、私は毎日、ご飯が終わった後に、テーブルを片付け、お皿やお茶碗を洗います。特に、コップを洗うのが好きです。洗剤をつけたスポンジでゴシゴシ洗い、水ですっきりと洗い流すと、見違えるように光り輝きます。でも、私は自分の片付けや皿洗いの仕事を『お手伝い』とは考えていません。家族の一員としての自分の役割だと考えています。自分のことを自分でするのに、お手伝いというのは変ですね。学校でも教室のお掃除をするのを『お手伝い』とは言いませんね。それと同じです。

皆さんはどうですか？洗濯にしる、掃除にしる、料理作りにしる、家族みんなのための仕事だと思います。それをお父さんやお母さんにだけ任せているとしたら、それは間違いだと思います。また、その仕事をするときに『お手伝い』と考える事も間違いだと思います。家族が楽しく心地よい生活を送るためには、家族みんなで協力していくことが大切です。そのためには、お父さんお母さん、そして子どもがどんな役割をすべきか考える必要があると思います。『勤労感謝の日』を機会に、家族それぞれの役割をぜひ考えて欲しいと思います。



論語は美しい言葉と知恵の宝庫

壬生町は全国的に見てもかなり早い時期に、壬生藩校『学習館』を開設し、文武両道の人材の育成に力を注ぎました。この『学習館』で学ばれていたのが、『論語』です。壬生町ではこのような歴史から、小中学生でも親しめることを前提に、約五百章ある論語の中から百章を抄出し、『論語古義抄』を作り、小中学生全員に配布しました。そして、すべての小学校では、この中から各学年三章、卒業までには十八章を覚えることにしています。その検定を校長が行っています。年度当初は高学年が多く検定に来ていたのですが、二学期になり1年生が校長室に来るようになりました。もうすでに、1年生分三章を覚えた児童もいます。校長室で一生懸命論語を唱える姿は、なかなか素敵なおもてなしです。

でも、できれば言葉の意味が少しでも理解できたら、もっと素晴らしいのにと感じます。もちろん、学校でもその意味を教えますが、ご家庭でも一緒に論語を楽しんでもらえたらと思います。



1年生の三章

『子の曰く、学びて時に之を習う、亦た説ばしからずや。朋有り遠方より来たる、亦た楽しからずや。人知らず而るを愠らず、亦た君子ならずや。』

スポーツでも音楽でも自分が毎日頑張っていることができるようになった時には、とても嬉しいですね。同じように頑張っているお友達に会って、お話ができたら楽しいですね。もし頑張っていることを誰も分かってくれなくても、がっかりすることはありません。誰も知ってくれなくても、頑張りを続ける人こそが立派なのです。

『子の曰く、言を巧くし色を令くするは、鮮きかな仁。』

心のこもっていない言葉や、わざと人を喜ばせようとして作った表情は、良くありませんね。何よりも、思いやりの気持ちを持つことのほうが、大切ですね。

『子の曰く、過ちて改めざる。是れを過ちと謂う。』

誰でも過ちをゼロにすることはできません。しかし、失敗したり、間違ってしまったことを、そのままにしておいてはいけません。素直な気持ちでやり直しましょう。そのままにしておくことのほうが、大きな間違いです。